

日本赤十字広島看護大学の現況と展望

開学10年を迎える日本赤十字広島看護大学。大学祭をはじめ、施設の開放、ヒューマンケアリング事業の充実など地域に開かれた大学として、これからもふれあいの場がますます増えることと思います。現況と展望を、学長・広報担当教授にお聴きました。

学長のご挨拶

昨年4月1日に学長に就任し、開学後9年目の本学の運営を引き継いで、約1年間が過ぎました。この1年間は、開学以来赤十字の理念である“人道”に通じる“ヒューマンケアリング”の教育理念の基に8年間蓄積してこられた教育活動を発展継承させることと、社会の変革に対応した新しい取り組みで、多忙な日々でした。平成21年度から看護学部へ助産師教育課程を新設すると同時に、編入4年制度を設けて、そこでも助産師教育をすることになりました。

また、大学院修士課程には新たに専門看護師(CNS)コースを母性看護学、小児看護学、成人看護学(がん看護)、精神看護学、地域看護学の5つの領域で開設することになりました。

さらに、地域貢献のための組織としてヒューマンケアリングセンターを開設し、摂食嚥下障害認定看護師教育課程(6ヶ月)を開始する一方で、地域の看護職員の継続教育、地域住民の方々の健康教育を開始することに致しました。

本学では、変革時期に柔軟に対応できる魅力ある看護職(看護師、保健師、助産師)の育成を柱として、地域の皆様に信頼され、親しまれる大学創りを目指していくつもりですので、今後ともご支援いただきますようお願い致します。

生涯学習・地域貢献の展開

地域に開かれた大学として生涯学習の機会をもっています。ヒューマンケアリングセンター事業として、看護専門職を対象にして、中四国地区赤十字関連施設・看護継続教育研修会を展開しています。また、地域の教育、心理、医学などの専門職を対象としたオープンカンファレンスは、開学早々の平成12年4月から開始され現在に至っています。

地域の皆様方の保健・医療・福祉の向上に寄与するために、地域の住民の方々に向けたセミナーとして、公開講座を毎年開催しています。幼子をもつ母親のための「子育てちょっと一休み」、「高齢者における緊急時の対応技術」、「高齢者の救急蘇生術」、「男性の健康づくりグループ」、「エアロビクス」などを開催してきました。

また、地域のラジオ局である「FMはつかいち」には定期的に赤十字情報を掲載されますが、その中に本学の学生・教員が登場し本学のさまざまな情報を紹介しています。

さらに、文部科学省の日本学術振興会選定事業である「ひらめき☆ときめきサイエンス事業」に選定された「病む人の気持ちにより添う看護」という事業を展開し、廿日市西高等学校を始めとする近隣の高校生を対象に「見て、聞いて、感じて」というテーマの元、



学長略歴・プロフィール
氏名:新道 幸恵
取得学位:看護学修士、医学博士
専門領域:専門領域/看護管理学、母性看護学、助産学
略歴:日本看護系大学協議会長、日本看護協会副会長を歴任、現日本赤十字看護学会理事

施設を開放しています

本学においては、テニスコート、体育館、講堂及び講義室を開放しています。

学内施設を利用する場合は、平日8時30分から17時までに申込みがあり、施設使用料を支払えば、土日も含め施設の使用ができます。

また、一般の方も図書の閲覧が可能です。平日9時30分から17時まで図書館へ入館可能であり、県内でも有数の看護専門書籍を閲覧することができます。

研究の実践者である本学松原准教授の講義やクリニクラウン(臨床道化師)の塚原氏の体験講義及び医療の現場である廿日市記念病院の緩和ケア病棟の見学・手島看護師長の講義を通して未来の担い手になる高校生に対し看護の現場について体験してもらいました。



ヒューマンケアリング事業「子育てちょっとひと休み」

阿品台コミュニティが主催する企画では、敬老会において、本学食堂を会場として提供しています。

(4ページに続く)



「ひらめき☆ときめきサイエンス事業」学長・本学教員と参加した高校生の皆さん

文化 部

第2回フレッシュ音楽祭

11月30日(日) 阿品台市民センター



二胡とワインの夕べ(婦人部共催)

12月5日(金) 阿品台市民センター

二胡奏者 趙榮春さん・ピアノ奏者 研井功子さんによるディナーショウのコンサート



文化講演会「植物と香り」 (婦人部共催)

2月28日(土) 阿品台市民センター

講師 関太郎さん(広島大学名誉教授)
作品提供 吉本敬子さん(廿日市市在住)



訂正とお詫び

前号「ふれあい45号」において以下のような誤りがありました。ここに訂正しお詫びいたします。

◆1面 中見出し

〔誤〕 市(地域振興部地域振興課)

〔正〕 市(自治振興部地域振興課)

◆4面 データで見る阿品台

表「学童の推移」右9、10段目・15、16段目

平成20年 教員数

・小学校教員数	〔誤〕	〔正〕
広島県	2,572	9,635
全国	82,593	419,312
・中学校教員数		
広島県	874	5,581
全国	32,910	249,509

体 育 部

第25回ソフトボール大会

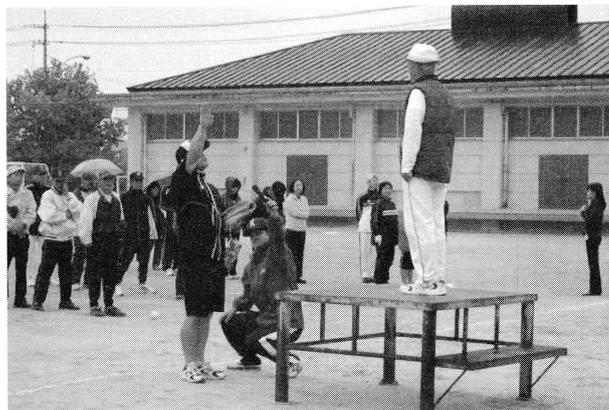
10月26日(日) 阿品台中学校グラウンド

時折小雨の振る中、7チーム(5丁目・5丁目上・タウンA・タウンC・タウンD・山九・連合チーム)が参加。リーグ戦で「山九チーム」が接戦を制しました。

優勝 山九チーム

準優勝 タウンDチーム

3位 5丁目チーム



第2回ミニテニス大会

10月26日(日) 阿品台中学校体育館

7チームが参加し、総当たり戦で5勝1敗を収めた「井原夫婦ペア」が優勝しました

優勝 タイガース(井原夫婦ペア)

準優勝 チーム直斗(山口・琴谷ペア)

3位 キャッツ(衣笠・馬淵ペア)

婦 人 部

広島ガス料理講習会

10月28日(火) 阿品台市民センター

柿崎不二子先生によるおもてなしイタリアン

クリスマスツリー作り

11月18日(火) 阿品台市民センター

吉和「ミントハウス」の酒井睦子先生によるドライフラワーを使ってのリース作り

しめ縄作り

12月26日(金) 阿品台市民センター

森永乳業料理講習会

1月27日(火) 阿品台市民センター

乳製品を使って成長期の子供向けの料理講習会

青少年部

ドッジボール大会

11月29日(土) 阿品台西小学校体育館
 参加者 小学生 54人 中学生 32人
 優勝 小学生 西小Bチーム
 中学生 ボンバアフロース

楽しくクッキング

阿品台市民センター
 10月18日(土) 牛井(参加6人)
 12月20日(土) ハヤシライス(参加8人)
 1月24日(土) グラタン(参加6人)
 2月21日(土) 雑すし(参加5人)

とんど

1月11日(日) 阿品台2丁目公園
 参加者 61人

夜回り(体育部共催)

11月8日(土) 18:00~19:00 (6周回コース)
 参加者 子ども56人・大人51人
 各町内会の子ども会、体育部・青少年部員及び住民有志で安全と防災を呼びかけました。

福祉部

第18回グラウンドゴルフ大会

10月13日(月) 阿品台東小学校グラウンド
 参加者 96人
 優勝者 阿品台北 釜野 正弘さん
 打数 49打 ホールインワン1本



ふれあい昼食会

10月31日(金)
 むいかいち温泉 ゆ・ら・ら
 参加者 50人



データで見る阿品台(廿日市市)「生活環境の現況と推移」

地球温暖化現象・ヒートアイランド現象等で、気象を初め様々な環境の変化が起っています。そこで、最近の環境データから「生活環境の現況と推移」として整理してみました。

環境内容				推移			判定
項目	測定場所	単位	平成1年	平成10年	平成18年		
大気	二酸化窒素 (窒素酸化物)	廿日市市(桂公園)	ppm	0.007	0.006	休測	良好
		阿品台公民館	ppm(A)	(0.041)	(0.021)	0.018	良好
	二酸化窒素 (窒素酸化物)	廿日市市(桂公園)	ppm	0.019	0.022	0.0054	良好
		阿品台公民館	ppm(B)	(0.005)	(0.006)	0.018	良好
水質	BOD	御手洗川の河口	mg/l	3.7	3.1	2	環境基準未達
	COD	地御前沖海域(阿品地先)	mg/l	2.3(4.0)	3	4	環境基準未達
騒音振動	騒音(昼間/夜間)	阿品台三丁目集会所	dB(A)	60/50	60/50	—	環境基準未達
	振動(昼間/夜間)	阿品台三丁目集会所	dB(A)	26/16	29/21	—	良好

- 単位…(A)はSO₂mg/日/100cm²、(B)はNO₂mg/日/100cm²
- 環境基準値…①二硫化硫黄の1時間値の1日平均値が0.04以下で且1時間値が0.1ppm以下、
②二酸化窒素の1時間値の1日平均値が0.04~0.06ppm以下、③河川水のBODは3mg/l以下
④海水のCODは2mg/l以下、⑤騒音は60/55、⑥振動は65/60dB以下
- 総合判定…阿品台地区の生活環境は一部地域(市道対厳山線沿い)の騒音を除いて大変良好である。
(騒音も左記道路より数m離れると59/40dB(H1年データ)と基準値以下となる)。
廿日市市街地域も河川と海水の水質に多少問題あるも良好な環境下にある。

看護大学の概況（平成21年3月現在）

・組織等について

学長 新道 幸恵（看護学部長兼務） 研究科長 飯村 富子 図書館長 川根 博司
事務局長 梶田 慎二 教員数 47名 職員数 18名

・学生数

学生総数 580名（学部生：559人、3年次編入生：21人） うち、女：540人、男：40名

・学生の出身地

平成20年度入学生の出身地状況は、半数は県内出身者であり、残り半数は南は沖縄から東は京都出身者がおり、中四国に留まらず全国から有為の人材が集まっています。

・就職の現況

平成20年度の就職率（大学院等への進学者等も含む） 100%

赤十字医療施設：71.1%、国公立系医療施設：15.5%、公的医療施設：5.6%、

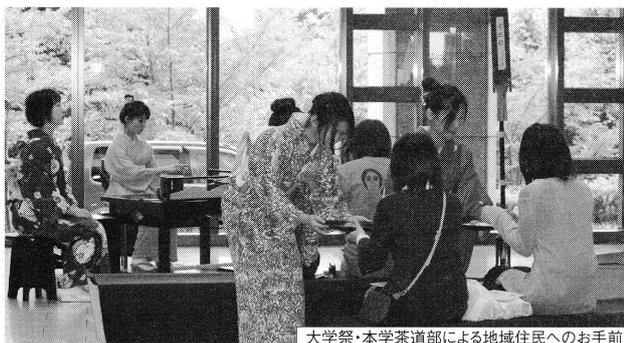
私設医療施設等：4.9%、進学者等：2.9%

その内、中四国地方の医療施設の就職率は全体の64.7%です。



大学祭全体風景

学生の地域への活動・貢献



大学祭・本学茶道部による地域住民へのお手前

学生自治会により毎年10月下旬の土日に大学祭を開催していますが、住民の皆様方にはバザーが大人気です。昨年は10月の25・26日に開催しましたが、第1日目の10月25日の12時頃には、大学の空を見上げると、本学は緊急時の救援拠点になっていますが、その緊急時に活躍する日本赤十字社のセスナ機が何機も大学上空を旋回しました。この日の夜には花火が空を染め、地域の皆様にもお楽しみいただけたと思います。

ボランティア活動としては、ボランティア部・赤十字奉仕団があります。地域支援活動として、養護・老人施設への慰問、献血・募金活動のPR等を行っています。

また、本学の教員・学生が中心となり、筋萎縮性側索硬化症（通称、ALS）の病気を患っている患者さんを

バスケットボールの大会観戦にお連れし、楽しんでいただく活動を行いました。（この模様は中国新聞に掲載）

今年より広島西部の地域機関紙である西広島タイムスに広島のキャンパスライフとして大学ノートという記事がありますが、そこに本学学生も定期的に記事を投稿し、本学の活動等の情報発信を行っています。

今回は初号として2月27日付けの西広島タイムスに記事を投稿しました。看護の実践訓練の場としての看護実習室及び本学学生の学びの場だけではなく地域の方・県内の医療関係者への広い情報提供の場となっている図書館について紹介しました。

地元・県内のイベントへの参加としては、昨年5月のフラワーフェスティバルの赤十字パレードの参加や、10月に開催された宮島お砂焼まつりに、パワフルなダンスパフォーマンスやソーラン踊りを披露しました。



大学祭・学生によるソーラン節演奏